

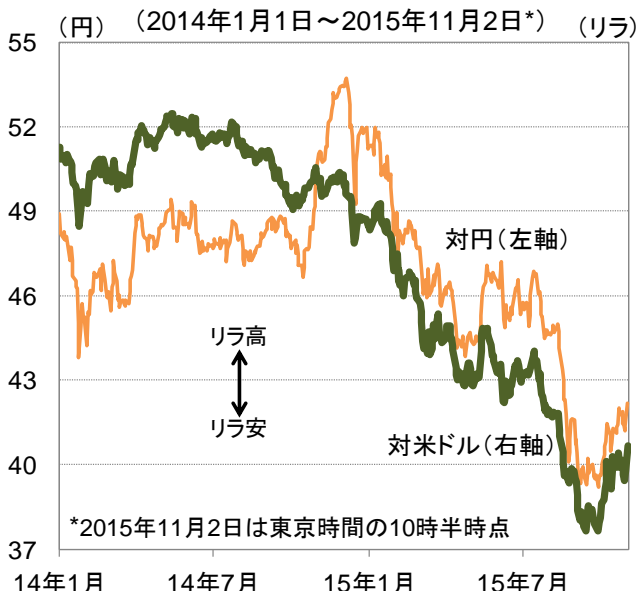
## トルコのやり直し総選挙で 与党AKPが予想外の圧勝

11月1日投開票のトルコのやり直し総選挙(定数550)で、前回6月の総選挙に続く過半数割れを予想されていた与党・公正発展党(AKP)が開票率約99%の段階で316議席を確保し、圧勝したと報じられています。テロが相次ぐなど、社会不安が高まる中、「安定の回復」を掲げたAKPの戦略が功を奏した模様です。また、2日午前の外国為替市場でも、政治空白の解消への期待などを背景に、トルコ・リラが買われています。

今回のやり直し総選挙は事実上、AKPの過半数回復と大統領権限の強化に向け、同党に大きな影響力を持つエルドアン大統領主導で行なわれたと考えられています。それだけに、大方の予想を覆す形で同党が過半数の回復に成功したことを受け、大統領の求心力が高まるとみられます。ただし、AKPは今回、大統領権限の強化に必要な、憲法改正を問う国民投票の実施要件である330(定数の5分の3)に議席を伸ばすには至りませんでした。同大統領は、通貨安やインフレへの対応に取り組む中央銀行に対してあからさまに利下げを要求するなど、過激な言動が目立ち、市場に大きな動揺をもたらすこともしばしばあるだけに、同氏への権力の過度な集中がひとまず避けられる見通しとなったことも、市場にとって好材料と考えられます。

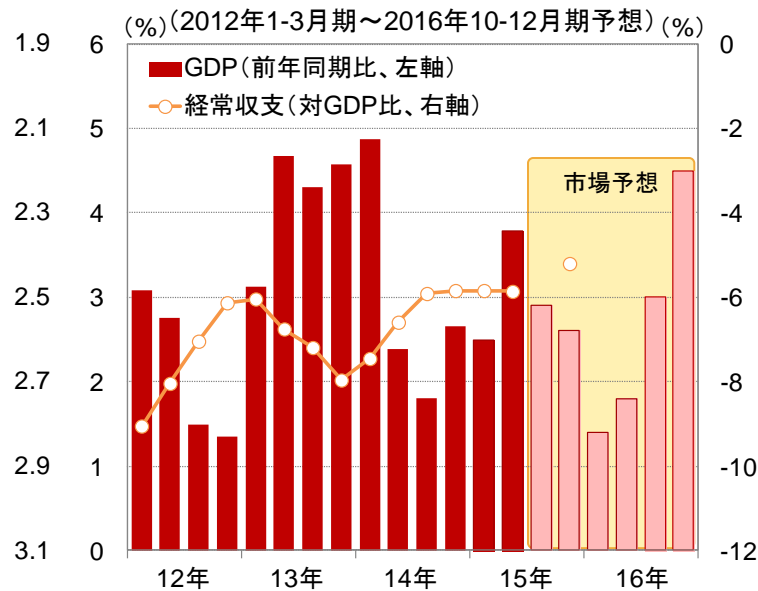
目先、注目されるのは、AKPの過半数回復に伴ない、短期間でまとまると期待される組閣です。エルドアン大統領が側近らを入閣させ、大統領権限の強化などを視野に大衆迎合的な政策を推そうとする可能性がある一方で、新政権が市場からの信頼の厚い人物を登用し、高インフレや失業率の上昇、景気減速への対応はもとより、構造改革なども進める場合には、市場に安堵感が生じ、トルコ・リラの一段の上昇につながることも考えられます。なお、今回のやり直し総選挙にあたり、AKPが「連続当選は3期まで」としてきた内規を廃止したことに伴ない、改革に前向きで、市場からの評価の高い、ババジャン前副首相も出馬しており、その処遇が特に注目されています。トルコでは、AKPの一党支配の下、政治と経済の安定が長く続いた実績があるだけに、やり直し総選挙を経て安定感を取り戻したAKPの舵取りが注目されます。

### トルコ・リラの推移



信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

### トルコのGDPと経常収支の推移



※上記は過去のものおよび予想であり、将来を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。